

2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

<p>2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項</p> <p><概評></p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流センターが所管する留学生科目の方針については、各学部・学科との今後の協議が期待される。 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性については、「学校法人大東文化学園自己点検・評価推進委員会」と「大東文化大学自己点検・評価委員会」が責任主体となり検証しているが、検証の過程において、学生への周知に関する有効性を検証できていないとしており、周知に向けた今後の検討を期待したい。
<p>2016年度外部評価委員会指摘事項</p> <p>なし</p>
<p>前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記）</p> <p>効果的な検証項目を明確にし、その項目に従って検証を行うこと。</p>

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準4	教育内容・方法・成果
中項目 4-1	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	4-1-1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
	教育目標と学位授与方針との整合性
	修得すべき学習成果の明示
点検・評価項目(2)	4-1-2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
点検・評価項目(3)	4-1-3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(4)	4-1-4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。(教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日)

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-1-1	<p>文学部は、学部の教育研究上の目的に基づき、以下のように学位授与方針を定めている。</p> <p>文学部は、所定の単位を取得し、以下のような能力を備えていると認められる学生に卒業を認定し、学士（日本文学・中国学・英米文学・教育学・書道学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 人文諸科学に関する学識を修め、人間や世界に対する柔軟な想像力と洞察力を持つことができる。 各学科で学んだそれぞれの専門性を生かし、社会において真摯に課題に取り組み、解決しようと努力することができる。 国際社会に対する広い識見をもとに、周囲と力を合わせ、未来を創造していく過程に参加することができる。
4-1-1	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>学位授与方針の策定について【○】</p> <p>具体的事例：平成30（2018）年度歴史文化学科開設に伴う文部科学省への届出申請と、全学教務委員会の3つのポリシーの見直しを踏まえ、文学部教務委員会において検討を行っている。</p>
4-1-2	<p>文学部は、教育目標と学位授与方針を踏まえて、学部の教育課程の編成・実施方針を、以下のように定めている。</p> <p>文学部では、ディプロマ・ポリシーを踏まえて、以下のようなカリキュラム編成を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 最初に、多様な現代社会に対応できるように、学部・学科を越えた全学共通科目として自然・社会・人文諸科学の各科目を学

	<p>ぶ。さらに基礎教育科目としての外国語科目・情報処理科目等、また、キャリア・ジェンダー・芸術（創作を含む）といった現代社会において必須とされる諸科目を学び、各専門科目への基礎を築く。</p> <p>2.次に、日本文学科・中国学科・英米文学科・教育学科・書道学科の五学科それぞれの基礎科目と専門科目を学ぶ。それらは各学科において体系的にカリキュラムが組まれている。</p> <p>3.各学科においては、少人数制のゼミや実践研究における課題に取り組むことによって、資料・情報の分析・読解能力、批評能力、自己表現能力、コミュニケーション能力、創造的実践能力の育成が目指されている。</p> <p>4.さらに各学科において、卒業論文や卒業制作、研究テーマへの総合的取り組みが、個別的指導のもとに行われる。</p> <p>科目区分、必修・選択の別、単位数等は、学則および『文学部履修の手引』等で明示している（A4-1-1 第23条の4～6、A4-1-7 p.36～p.92、B4-1-12 d2-表21）。</p>
4-1-2	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 教育課程の編成・実施方針の策定について【○】 具体的事例：学位授与方針の策定と同様に、平成30（2018）年度歴史文化学科開設に伴う文部科学省への届出申請と、全学教務委員会の3つのポリシーの見直しを踏まえ、文学部教務委員会において検討を行っている。</p> <p>(2) 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示について【○】 具体的事例：平成30（2018）年度歴史文化学科開設に伴う文部科学省への届出申請に関連して、学則と『文学部履修の手引』との齟齬について文学部教務委員会・文学部教授会において検討を行い、学則改正を行なった。</p>
4-1-3	<p>学部の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、ホームページ、『文学部履修の手引』に掲載し、周知が図られている（B4-1-2、A4-1-7 p.2）。各学科の学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、『文学部履修の手引』、受験生向けの『大学案内（CROSSING）』に掲載され、ホームページでも公開されている（A4-1-4 p.034、P.037、p.040、p.043、p.046、p.049、p.052、p.055、p.058、p.061、A4-1-7 p.25、p.37、p.47、p.61、p.73、B4-1-12 d2-表1）。</p>
4-1-3	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 大学構成員への周知方法と、その有効性について【○】 具体的事例：新入生サブテキスト『文学部へようこそ2017』を発刊し、新たな取組として「教育研究上の目的」「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」を巻頭に掲載して、5学科の初回の基礎ゼミ等の授業で周知している。</p> <p>(2) 社会への公表方法について【○】 具体的事例：文学部ホームページに、新入生サブテキスト『文学部へようこそ2017』（PDF版）をアップロードし、公表している。</p>
4-1-4	<p>文学部は、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、毎年度の自己点検・評価活動で検証を行ってきた（B4-1-6）。組織としては、五学科の学科協議会、文学部教務委員会、文学部主任会議、文学部教授会の順に検討・協議し、検討や修正が行われる体制になっている。</p>
4-1-4	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：</p>

【効果が上がっている事項】

4-1-1	
4-1-2	
4-1-3	
4-1-4	

【改善すべき事項】

4-1-1	今年度3つのポリシーの見直しを行うことになっている。
4-1-2	
4-1-3	
4-1-4	学位授与方針、教育課程の編成方針について、定期的に検証を行う必要がある。

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	4-1-4 文学部教務委員会において、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュ	文学部教務委員会において検証が行われている。			A	A	

	ラム・ポリシー) の検証を行う。	
16年度 目標	4-1-4 文学部教務委員会において、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の検証を行う。	文学部教務委員会において検証が行われている。
17年度 目標	(対象期間は2017年4月～2018年3月) 4-1-4 文学部教務委員会において、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の検証を行う。	文学部教務委員会において検証が行われている。
	4-1-1、4-1-2 今年度、文学部5学科の3つのポリシーの見直しを行い、必要があれば改訂する。	文学部教務委員会において検証が行われている。

		A		
			A	
			A	

IV 評価専門委員会所見

4-1-1、4-1-2、4-1-3【現状】は取組と成果について有[○]とし具体的な事例も明確に記述されています。文学部では新設する歴史文化学科とともに4-1-4【目的】、即ち教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについての体制整備に引き続き取り組むことを期待します。

V 所見への対応

4-1-4【目的】についての体制整備に引き続き取り組んで参ります。

VI 次年度への課題

特になし

本項目の根拠資料(データ類、裏付けとなる資料)

A4-1-1 大東文化大学学則 <既出>A1-1
 A4-1-4 大学案内「CROSSING2016」 <既出>A1-6
 A4-1-7 文学部 履修の手引き 平成27(2015)年度入学生用 <既出>A1-9
 B4-1-2 大学ホームページ(情報公開) <http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html> <既出>B1-6
 B4-1-6 大学ホームページ(自己点検・評価活動)
<http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html> <既出>B1-16
 B4-1-10 2015年度第1回文学部教授会議事録
 B4-1-12 大学データ集 <既出>B1-22

[追加資料]